

ここから成績を上げるには

茗溪塾塾長 長谷 誠基

11月に入り朝晩は大分寒くなってきました。今年から始まる大学の総合型選抜の結果も出始め、12月1日には千葉県私立中学の第1志望入試も始まり、いよいよ受験が本格化してきます。今年はコロナの影響が入試にもおよんで、日程の分散化や時間の変更、掲示発表の取りやめなどを行う学校も出てきています。1部屋の席数を減らす、サーモカメラでの体温チェックなど今までにない入試の光景が見られることになるでしょう。開成中高では新型コロナに感染、または濃厚接触者に認定され入学検査が受けられなかった受験生の救済措置として2月23日に追加試験を行うことも発表されました。今後他校でも同様の措置が取られるようになると万一のときに悔いを残さないようにできるのではないかと思います。

この時期になると、模擬試験の結果や過去問の点数も出て来ますが、良い判定が取れず気持ちに焦りが見えてくる受験生もいます。『自分はこんなに頑張っているのにどうして結果が出ないのか?』と思うのですが、周りの受験生も懸命に勉強しているので、自分ひとりだけが目覚ましく成績を伸ばすのは非常に難しいことです。まずは模擬試験で出来なかった問題や過去問のやり直しを最優先すべきなのですが、焦りのあまり意味のない勉強をはじめてしまうのには注意が必要です。意味のない勉強とは、頭を使わない勉強＝作業勉強です。例えば、自分は江戸時代がよくわからないからと言って、テキストを見ながら江戸時代のまとめノートを作る。一見知識が整理されて良さそうに思えますが、ほとんどの生徒はほぼテキストを丸写しすることになります。そして、写している間は全くといいほど脳は働いていません。これでは作るのに使った時間だけ無駄ということになります。出題範囲の決まっているテストに向けての勉強で、その後暗記に使えるノートを作るのならいいのですが、入試に向けてという意味ではおすすりできません。今なら過去問や模擬試験で出て間違えた問題の知識をノートに書き出したり、その分野の知識テストをもう一度やったりして、覚えていなかったものを頭に入れるようにしてほしいと思います。漢字や英単語を何回書いてもそれだけでは偏差値は上がりません。算数や数学の問題でたとえ正解は出せなくても、図を書いたり書き出したりして考えることで思考力はついてきます。成績がなかなか上がらない受験生ほどそういうことを面倒に思っってやらない傾向にあります。ここからは自分が思っている以上に勉強に取り組む時間は増やすことが出来ます。焦る気持ちはわかりますが、安易な勉強に流れず、頭を使った勉強を心がけて下さい。